

# 究極の「自己中」から究極の優しさへ

(医) につき会グループ 理事長 佐藤正樹 さとうまさき

「自己中」を、自分に対して最大利益をもたらす考え方、行動様式と定義するならば、究極の「自己中」とは、自分のためではなく他人の利益、幸福のために行動することである。こんなことを以前から感じており、他人のための行動が結果として自分に一番多くのものを返してくれる、いわゆる自分の最大利益を得る方法だと思っていた。

こんなことがあった。医療スタッフが、ある患者さんに生活習慣での指導をしているときであった。これを食べてはいけない、これをしてはいけないと指導しているのである。この患者さんは叱られているような感じで、すっかり意気消沈していた。このスタッフは間違ったことを何ひとつ言っていないが、明らかに足りないものがあった。相手の気持ちを考えながら指導する優しさが欠けていたのである。どんな素晴らしい知識、技術も、優

しい気持ちがなければうまく相手に届かない。いつも相手の気持ちを考えて行動できる人は、すべての人に優しい。結果としてたくさんの人から信頼され愛されるのである。人から返していただく信頼や愛に感謝するからこそ、ますます人に優しくなれる。そこには自分の利益になるからという理由で、相手に優しくするという計算はない。ただ純粹に相手のことを考えての行動である。相手に優しくすることは相手にももちろんよいことであるが、自分にも気持ちのよさが残る。いつも気持ちがよいのである。そしていつもその人の周りにはたくさんの人が集まり、さらに周囲を幸せにしていく。究極の「自己中」ではなく、究極の優しさが自分も周りをも幸せにしていくのである。

日本では古くから、おかげさま、お互いさま、という感謝を表す言葉がある。私たち医療法人につき会グループには、医療施設に通院してくれるお客様や、介護施設を利用してくれるお客様がいるからこそ、仕事が成り立ち、職員共々生きていけるのである。いつもおかげさま、お互いさまの感謝の気持ちを忘れず、精一杯皆様のために仕事をしなければいけない。とはいえ、自分も医療法人グループもまだまだ未熟である。究極の優しさをもって地域社会に貢献し、地域社会を幸せにし、そして職員を幸せにすることをいつも実践していきたい。